

2021.7.20

校長通信 No.18

〇8割以上が病気の治療のため



～3年生対象 献血セミナー～

7月16日（金）、日本赤十字血液センター豊岡支部からお越しいただき、3年生を対象に献血セミナーを実施しました。

献血された血液は、事故等で出血多量となった人のために輸血されるとおっしゃっていましたが、その割合は全体のわずか3%。実は8割以上ががんなどの病気の治療に使われるとのこと。1日当たり3000人の方が輸血を必要とされています。その分の血液を賄

うためには14000人の献血が必要とのこと。少子高齢化で、血液を必要とされる人は増えるのに、献血できる若い人が減っているということは、救えるべき命が救えない状況があるということです。現在の科学では、血液を人工的に作り出すことはできません。献血は、私たちができる命のボランティアです。（アンパンマンのエキスを届けよう）

〇自らが汗をかく覚悟で！

～教員志望者セミナー～

「大垣先生に高校時代教えてもらいました〇〇です。」

4月に柏原高校に着任して、市内の中学校や小学校に挨拶に回った時、柏高OBOGの先生が声をかけてくれました。丹波市内の小中学校をはじめとする教育施設で働く卒業生はたくさんいます。柏原高校が、地元丹波の教育の一端を担っていると言っても過言ではないでしょう。



7月15日（木）には、市立吉見小学校から足立圭造校長先生にお越しいただき、「教員志望者セミナー」としてご講演いただきました。足立校長先生は本校の37回生、教員の魅力、見える仕事と見えない仕事、特性、しんどさなど校長先生の立場、また自分のこれまでの経験からお話しいただきました。

そして、教員を志す生徒に向かって、「これだけやれば終了というノルマのない、しかもマルチな対応を求められる教員の仕事をを行うためには、自らが汗をかく覚悟とコミュニケーション能力が必要である」と強調されました。

生徒たちは真剣に話を聞いていました。教員は、子どもの成長が見え、自分も成長し、創意工夫ができ、大きなやりがいがあります。期待しています。頑張ってください。